

No.	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	特定非営利活動法人三重ダルク	三重県	コロナ禍における依存者の緊急支援～誰も弱者にしない志摩プロジェクト～	コロナによって顕在化した依存症者に対し、感染状況の低い三重県に新たな拠点を確保し支援を行う。志摩市は現在、高齢化が急速に進んでいる地域であり、高齢者の孤立を防ぐための様々な支援が求められている。今回のプロジェクトでは、就労・社会参加が困難になった依存症回復者を中心に、地域の高齢者の通院や移動の支援（輸送）、買い物の代行、弁当の配食等を行う事業を立ち上げる。依存症からの回復においては、従前から抱える障害（知的障害や発達障害など）のために一般就労が困難なメンバーも多いが、依存者を単に支援の対象（社会的弱者）とせず、「共生」という視点に立ち、彼らを地域の有用な資源として捉えた解決を目指す。
2	社会福祉法人南山城学園	京都府	KOUFUKU（工・福）連携の創造～ロボット×福祉による新たな就労～	コロナ禍でより深刻化しているアディクションを含めた働きづらさを抱えた人々の状況を先端技術との融合で新たな仕事を創出する。ここでいう「仕事の創出」は構造変化に迫るものを指している。協働型ロボットを活用することで、福祉事業所の抱えるこれまでの構造（低価値商品の製造＝低工賃）を変化させ、新たな構造（高付加価値商品の製造＝高工賃）を生み出す。ロボットによる商品製作の周辺に多様な業務が創造でき、多彩な人々の能力を活用できる。また、事業のプロセスで地域の中小企業との連携や自治体事業との連携により、単なる高付加価値モデルでなく、地域に貢献する、地域の担い手として実感できるモデルづくりを行う。
3	医療法人誓生会	愛媛県	依存症患者リワーク強化型精神科デイ・ケア	新型コロナウイルス感染拡大の長期化によってアルコール等依存症患者の増加が懸念されており、当該患者の早期治療と早期社会復帰を支援する必要がある。現在当院が有する精神科デイケア施設は、うつ病や統合失調症患者が中心であり、依存症患者の受入数の限界や旧病棟内に設置しているため耐震上の問題がある。今回、病院敷地内に精神科デイケア施設を移転新築した上で、依存症患者の復職支援を強化した施設にリニューアルする。当該取組により施設の耐震性・感染防止対策の観点における安全性が向上し、地域の依存症患者を含む精神疾患患者の治癒数の増加と復職が促進され、地域経済における失業率や人材不足等の問題の改善に繋げていく。
4	一般社団法人アミュール	大阪府、（奈良県）	新型コロナウイルス対応緊急支援助成	「自己肯定感サロン」として、精神障がい者の方たちに「自己肯定感を高めるサポート」をします。精神障がい者の方たちは、心療内科（精神科）に行っても5分程の診察を受け、投薬を受けて帰られます。精神障がい者の方たちは、「もっと自分を理解してもらいたい」「病気を治したい」「苦しみをとってもらいたい」「孤独で寂しい」と思っている方が多いです。また、精神科の先生たちも大変忙しく、本当はもっと時間をとりたいと思っているけれど難しい現状があります。そこで「自己肯定感サロン」が精神科のドクターたちと連携して、精神障がい者の方たちに自己肯定感サポートを行なっていきます。
5	株式会社BASYO	滋賀県東近江圏域	砂栽培で孤立者が働き集える場所の創造事業～ポストコロナを見据えた新しいノウフク連携～	コロナウイルス感染症の影響により、もと引きこもりで就労移行した方等が、就業した企業の雇用調整により休業・失業・定年を余儀なくされている。彼らは依存に陥りやすい性質があるため、雇用調整に陥いても、定年になっても、生活のリズムを保つために継続して働け集える場所が必要である。このため、地域の未利用資源である遊休農地や施設を活用して、高齢者、障がい者、環境にやさしいエコ・エコ農業である砂栽培を導入して働け集える場所をつくる。また、コロナ禍の外出自粛が続く中、親の健康に深刻な影響が出て、家族の分離が急務になっている8050問題に対応するため50歳代のひきこもりの子どもとの働く場としても利用する。
6	株式会社クロフネファーム	三重県、高知県	コロナ禍における障害者就労支援事業～焼き芋スイーツショップ × 障害福祉事業～	・コロナ禍で障害者雇用、事業継続が困難になる状況を打開するための、「焼き芋スイーツショップ」の開設 ・障害者にとって、「高度な調理技術が必要ないための働きやすさ」「接客を通じたお客さんとの関わり」「収益や技術向上によりわかりやすい賃金アップ」というメリットのある事業 ・また、燃料に地球環境に影響ある森林の間伐材を利用したペレットという木材チップを使うことで、SDGsを考慮した環境にもやさしい取り組み

7	一般社団法人一輪舎	大阪府	新型コロナウイルス対応緊急支援助成	地域コミュニティの新たな形を創出。敷地内に5つの店舗・1つのシェアスペースを斬新なデザインで作り上げ映えるものにする。店舗の1つは弊社出店し、店舗とシェアスペースを貸しスペースとする。気軽に低リスクで出店でき、人の集まる場になる。障害を持った人は、販売店のサポート業務や、自身が出店チャレンジし多くの職業経験から自信をつけることができる。地域に求められる場の管理をし、自然に障がいへの理解を広げる。
8	一般社団法人 Shake Hands	和歌山県内	みんなの“働きたい”を稼ぐ農福連携で実現～健康的で働きがいのある職場を農業でつくる～	コロナ禍で障害者の解雇率の増加、長期化・深刻化が懸念され、既存の働き方や収益モデルに頼らない新たな働き方や事業づくりが急務である。そのため本事業では、①既存の1、2号店に加え重度精神障害者を対象とした新たな農園「3号店」を開設②3号店業務のサポートを1号店利用者が担い、1号店利用者の中で新たな職能を有した人材を発掘し、既存の業務を新規就労者へシェア③ネギで実績を積んだ他期作型モデルを応用し雇用増と給与増、葉物野菜は提携先である地元スーパーが全量買い上げ、の3点を通じて、農園利用者の給与や工賃の整備、精神障害者の新規雇用の増加、工賃を得る生活介護利用者を増加させる事を目指す。
9	特定非営利活動法人ええもん	兵庫県	感染症絶対回避者の仕事創出事業～デリバリー専用シェアキッチン事業～	特殊な治療を必要とする身体障害者ならびに難病患者や重度障害者を家族にもつ失業者に対し、 デリバリー専用シェアキッチンを整備し、①一般客：Uber Eats等のネット注文を受付、 ②BtoB：企業のランチや現場への配食、③無料の共同売店&こども食堂の調理代行料、 ④ムスリムフレンドリーキッチン：ムスリムやビーガン専用弁当（コロナ禍後）、⑤イベント出店の調理代行料、などWEBデリバリー・事前予約のみで複合的な収入源を確保し、感染リスクを減らした安全で柔軟な就業形態の仕事を創出する。
10	株式会社 Re-birth	滋賀県を主に近畿圏内	コロナ禍で孤立する大学生の依存症未病対策～地域での繋がりの機会と場の創出を通じて～	一人暮らしを中心とした大学生が、コロナ禍においても社会的に孤立したり、不安に苛まれないよう、学生同士の繋がり、地域社会の中での多様な人との繋がりを生む場と機会を提供する。 実施にあたっては、学生が集うことのできる地域拠点（場）の整備と、地域拠点を活用した継続的な実践プログラム（機会）の提供を二軸とする。安定した場と継続的な機会を基盤として、他大学や年齢の違う学生同士や、一次産業従事者や福祉施設など地域社会のプレイヤーとの繋がりを創出する。
11	一般社団法人京都わかくさねっと	京都市	わかくさカフェ地域の居場所拠点事業～あなたが、あなたらしくいれる場所～	コロナ禍で、貧困や社会的孤立、暴力被害が深刻化するなか、自殺や自傷、SNS依存、摂食障害等の課題を抱える女性が急増しています。少女たちは、コンプレックスや性被害、DV等、家族に打ち明けられない悩みを抱え、心の傷を他のものに依存する傾向があります。本事業では、現在ホテルと連携し運営している居場所に加え、少女たちが主体となって運営するカフェを開設し、困ったときにふらりと立ち寄れる居場所をつくります。食事や物資の提供や、おひるねなどの休息の場、安心な環境の中での医療や心理など専門家からの相談窓口を提供するとともに、一緒に生きていく関係のなかで、社会での活動や夢を実現する機会を提供します。